

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	旭松食品株式会社					
代表者名	氏名	木下 博隆	役職名	代表取締役 社長		
主たる事務所の所在地	長野県飯田市駄科1008番地					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	0993 豆腐・油揚げ製造業				
主たる事業の概要	凍豆腐製造・即席みそ汁製造・その他大豆加工食品製造					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	6133	5949	5774	6187	6063
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	13335	12934	12519	13365	13106
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	40		49	46	56
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	884				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	平成 28 年度
------	----------

計画期間	平成 29 年度～ 平成 31 年度
------	--------------------

報告対象年度	平成 31 年度
--------	----------

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	弊社本店において、事前に関覧申し込みをいただき、閲覧可能と判断した方に対し、弊社の指定した日時にて対応。 問い合わせ先 弊社本店内技術開発部（エネルギー管理推進責任者）電話番号 0265-26-6494
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

様式1号
(総括票)

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

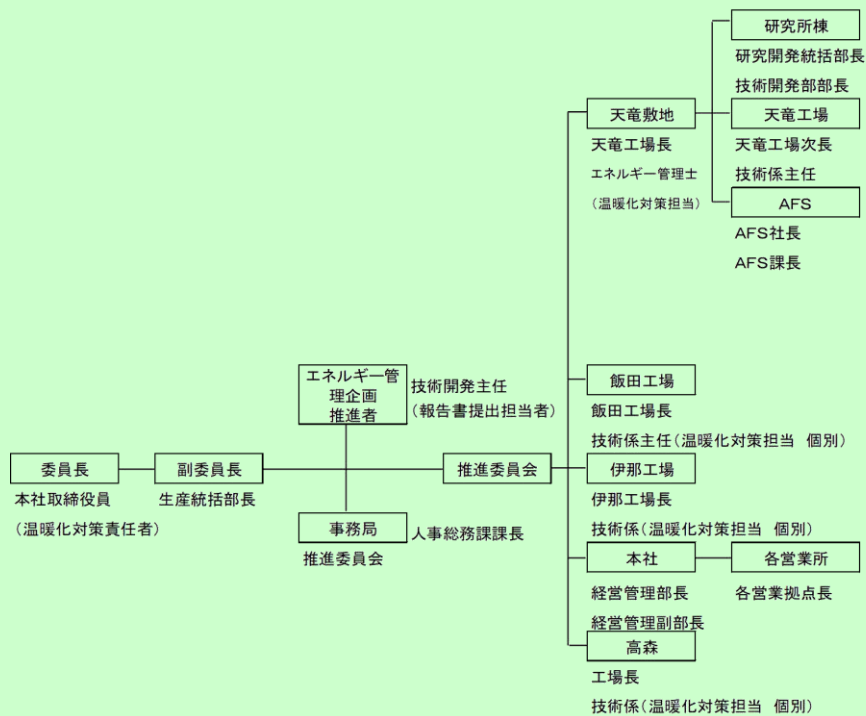
1. 無駄を排除し、無理なく長続きできる省エネ対策を推進する。
2. ピークを見定め、必要な時にしっかり節電（ピークカット）推進する。
3. 目標＝年1%の原単位エネルギー使用率の改善

ムダの排除を徹底するとともに、経済的にもメリットのある省エネ対策をCO2削減の視点も踏まえ、徹底し定着させていく。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制

温暖化対策委員会組織図

平成29年7月1日



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

全社省エネ、温暖化会議（年4回開催）

担当者会議（毎月）

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	13,335	t-CO ₂	生産量	8,071.00	単位	t	
28年度	調整後排出量	13,277	t-CO ₂	基準原単位	1.65	t-CO ₂ /	t	
目標年度	目標排出量	12,934	t-CO ₂	目標原単位	1.60	t-CO ₂ /	t	寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
31年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		
目標設定に関する説明	年平均1%削減の会社目標を採用した。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	12,519	t-CO ₂	生産量	7,369.00	単位	t	
	調整後排出量	12,451	t-CO ₂	原単位	1.70	t-CO ₂ /	t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
29年度	削減率	6.11	%	削減率	(3.04)	%		
排出量等の増減理由	当社では年々販売量の減少を受ける中で、生産量の減少に影響を受けない固定的なエネルギーが掛かり非効率生産を余儀される中省エネの取り組みの成果だけではCO2原単位の目標達成には至らなかった。							
第二年度	排出量	13,365	t-CO ₂	生産量	8,346.00	単位	t	
	調整後排出量	13,306	t-CO ₂	原単位	1.60	t-CO ₂ /	t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
30年度	削減率	(0.23)	%	削減率	3.03	%		
排出量等の増減理由	当社当該年度の売上が好調に推移し生産量も基準年度に比較し多い中で固定エネルギー影響が少ない効率生産が行えた。又、専門部署中心に設備の最適管理を迫及する活動でエネルギーの無駄を省くことで原単位で見るところの数値は非常に良かった。CO2の排出量においては効率生産は出来たものの生産量増(天竜工場、飯田工場、高森工場)による若干の排出量増があった。							
第三年度	排出量	13,106	t-CO ₂	生産量	8,363.00	単位	t	
	調整後排出量	13,034	t-CO ₂	原単位	1.57	t-CO ₂ /	t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
31年度	削減率	1.71	%	削減率	4.84	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	売上が好調に推移し生産量も基準年度に比較し多い中で固定エネルギー影響が少ない効率生産が行えた。又、専門部署中心に設備の最適管理を迫及する活動でエネルギーの無駄を省いてきた。							

様式1号
(総括票)

6の2エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	884	t-CO ₂			
年度						
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		状況	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	310200 主要設備等の保全管理	29	30	29	30
2	エネ起	330208 空気調和設備の保全管理	29	10	29	10
3	エネ起	350651 変圧器の負荷統合	30	5	30	5
4	エネ起	360705 ポンプ、ファン、パワー、コンプレッサ等の保全管理	30	10	30	10
5	エネ起	330299 空気調和設備の更新			29	16
6	エネ起	380799 照明設備の更新			29	35
7	エネ起	360799 コンプレッサの更新			29	44
8	エネ起	330204 冷凍機の効率管理			29	24
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	58		68	59	72
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	0	0	0	0	0	0	0	0
1,500k1以上 3,000k1未満	2	11,490	2	10,668	2	11,213	2	11,102
1,500k1未満	2	1,845	2	1,851	2	2,152	2	2,004
合計	4	13,335	4	12,519	4	13,365	4	13,106

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
NF ₃	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数、導入計画及び実績 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	5	8	8	8
電気自動車	0	0	0	0
燃料電池自動車	0	0	0	0
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	0
その他 (ハイブリッド等)	5	2	2	5
合計	10	10	10	13
自動車総数	40	49	46	56
次世代車導入割合	25	20.4	21.7	23.2

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援状況

区分	内容
中小企業への省エネ診断	飯伊地区官民による地域ぐるみISO研究会に参加して参加企業の省エネ活動のアドバイス等を行っている。
その他	特になし

1.5 交通対策状況

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	・飯田市の取り組みである自転車貸与による代替え交通手段の取り組み(2台) ・地域ぐるみISO研究会の環境一斉行動でノーマイカー運動に参加
公共交通機関の利用促進	・通勤に公共交通機関を使用している従業員にはその費用を100%会社が負担。
来客者の交通対策	・来客される方へ公共交通機関を紹介している。 ・駐車場でのアイドリングストップの依頼。
物流の合理化	・弊社物流子会社が共同輸送を実施。

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1	特になし	
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	・家庭における省エネ取り組みへの啓蒙活動。(飯田市協業) ・廃棄物の細分別と削減。
第一年度実績	・家庭における省エネ取り組みへの啓蒙活動。(飯田市協業) ・廃棄物の細分別と削減。 ・旭松バイオセンター竣工(7月)資源の肥料化
第二年度実績	・家庭における省エネ取り組みへの啓蒙活動。(飯田市協業) ・廃棄物の細分別と削減。 ・旭松バイオセンター資源の肥料化
第三年度実績	・家庭における省エネ取り組みへの啓蒙活動。(飯田市協業) ・廃棄物の細分別と削減。 ・旭松バイオセンター資源の肥料化

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取組み	照明器具のLED化更新	62
その他	2017年度より外部委託業者との共同取組としてエネルギー使用量削減の5か年計画を掲げ活動を開始させエネルギーの無駄の追及を最大のテーマとして活動を実施しています。	30